

令和3年度学校経営計画に対する最終報告書

石川県立鹿西高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び改善策（成果と課題）
<p>1 学習習慣の確立と教科指導力の向上</p> <p>・学ぶ楽しさや充実感、達成感の得られる授業を展開し、生徒が自ら計画を立て進んで学習に向かう力を育成する。</p> <p>・生徒の学習状況を把握し、個別指導、習熟度別指導や学習方法の指導を効果的に取り入れ、学習内容の着実な定着と学力向上に努める。</p> <p>・若手教員早期育成プログラム、中高連携（中能登中学校との学習交流会等）、他校への授業参観、大学入試問題研究の推進等により指導力の向上に努める。</p> <p>・GIGA校内研修推進リーダーを中心とした校内研修を通じて、ICT活用指導力向上に取り組み、生徒の学びの質の向上を目指す。</p>	<p>① 研究授業・相互参観授業並びに協議会を計画的に行い、全教員の組織的な授業研究によって、思考力を高める授業を展開する。</p>	<p>【教員】思考力・判断力・表現力を育成する学習活動を取り入れた授業は全授業回数の4割以上であると答える教員が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満</p>	<p style="text-align: center;">A (73.1%)</p>	<p>教員が授業改善にさらに努めた結果、6.5ポイントアップした。生徒も「深く考えさせる授業である」と答える割合が91.6%と高い。ただ、授業回数の5割以上で上記の学習活動を取り入れたとする教員が2割弱減っており、教員の意識を高める必要がある。</p>
	<p>② 生徒による授業評価結果を授業改善に生かし、学習意欲と学力の向上につなげる。</p>	<p>【生徒】授業が動機づけとなり意欲的に学習に取り組んでいると答える生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p style="text-align: center;">A (92.1%)</p>	<p>Chromebook等を活用することで、クラス全員の生徒が、思考したことを表現し共有することが容易になった。それが学習意欲の向上に繋がる一因である。その学習意欲を家庭学習に繋げていくことが今後の課題である。</p>
		<p>【生徒】授業内容を理解できると答える生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p style="text-align: center;">A (86.2%)</p>	<p>授業を理解できるからこそ、学習に意欲的になれる。加えて、復習をし、学習内容を定着できれば、次の授業もスムーズに始められ、学びの質が向上する。課題は、教員が「分かる授業」+αの指導をすることである。</p>
	<p>③ 家庭学習時間や出席状況を把握し、その調査結果を全教員が共有し、生徒個々への指導・助言・相談に携わる。</p>	<p>【生徒】目標家庭学習時間を達成した生徒が A 50%以上 B 35%以上 C 20%以上 D 20%未満</p>	<p style="text-align: center;">C (32.4%)</p>	<p>11月の新人大大会後～12月の期間、毎日の生徒の記録からの集計結果である。上半期と同じく、3年生や定期考査前は達成率が高い。上記の取組から、生徒は授業内容を理解できており、授業が学習の動機づけになっていることが分かる。課題は、教員が生徒に対して授業に臨む姿勢について指導し、生徒の家庭学習習慣を確立させていくことである。</p>
<p>④ 校内研修推進リーダーを中心に、校内研修を通してICT活用指導力の向上を図る。</p>	<p>【生徒】授業でICT機器を用い、学習効果があがっていると感じる生徒が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満</p>	<p style="text-align: center;">D (84.5%)</p>	<p>Chromebookを活用する授業が増えてきた結果、生徒も教員も使うこと自体には慣れてきた。校内の研究授業や、他校教員への公開授業を通し、活用法の改善を図っている。また、教員総合研修センターのGIGA出前サポートを活用し、活用法の助言をいただく予定である(2月中旬まで)。今後も継続し、指導力を向上させていきたい。</p>	
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>アンケート結果から学習効果が上がっていることがわかる。また、学習環境の改善にICTが役立てられているように感じる。</p>			
<p>評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>家庭学習習慣を確立し、学習時間を伸ばすことが課題であり、どのような予習・復習を生徒に求めていくことがよいか、各教科で検討する機会を設ける。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び改善策（成果と課題）	
<p>2 豊かな人間性の育成、健康や体力の増進、たくましい人づくりの推進</p> <hr/> <p>・健康で安全な生活を送るための基本的な生活習慣を確立させるとともに、感染症対策の徹底を図る。</p> <p>・生徒会活動や学校行事、部活動、ボランティア活動を通して、豊かな人間性や社会性を育む。</p> <p>・生徒理解を深め、いじめ・暴力・ネットトラブル等の問題行動や不登校の未然防止と早期の対応に努める。</p>	① 日常での遅刻、服装、マナー等に関する基本的な生活習慣の指導を全教員で行う。	【生徒】 頭髪服装検査において、再検査指導を受ける生徒の割合が A 10%未満 B 15%未満 C 20%未満 D 20%以上	(91.1%) A	年間を通じ、頭髪服装に関する意識は高い状況でA評価であった。また基本的な生活習慣に関して、不注意による遅刻は昨年比の4分の1に減少しており、時間に対する意識も高くなった。全教職員で5分前行動を呼びかけた成果と言える。	
	② 感染症対策の徹底のため、保健衛生環境の整備を全教員で行う。	【教員】 感染症対策について、校内で意識的に取り組んでいると答える教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	(89.6%) B	新型コロナウイルス感染状況が日々変化し続けているが、気の緩みから時々マスクを外す等が見られる場面があった。次年度に向けて、マスク、手洗い、換気等の基本的な感染症対策を徹底していきたい。	
	③ 鹿高祭、校内球技大会、校内合唱大会等の学校行事を通して生徒の自主性・協調性を育成する。	【生徒】 行事に対して満足感・達成感を持っている生徒の割合は A 85%以上 B 75%以上 C 55%以上 D 55%未満	(88.7%) A	昨年度後期は81%で過去最も高い数値であったが、今年度はさらに7.7ポイントアップした。生徒の主体的な取り組みを教員・保護者がバックアップする形をとり、このような高評価に繋がったと考える。今後さらに工夫し、生徒会活動を充実したものにしたい。	
	④ 部活動では健康・安全面を考慮し、有意義で充実した活動を行う。	【保護者】 子どもが学校生活を意欲的に送るようになったと答える保護者が A 85%以上 B 75%以上 C 55%以上 D 55%未満	(90.0%) A%	生徒会活動のみならず、日頃の授業や学級活動・生徒指導・進路指導・その他全てにおいて、チーム鹿西が上手く機能した結果の高評価であると考えている。生徒一人ひとりのニーズにいかにして応えるかを更に求めたい。	
	⑤ 問題を抱えている生徒に対して、生徒指導課・保健課・教育相談課・担任・学年主任を中心に全教員で連携し、解決にあたる。悩みを抱える生徒の早期発見早期対策を行う。	【生徒】 充実した部活動を実践していると感じる生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	(87.2%) A	【教員】 各課・学年と連携がとれて、問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれたと答える教員が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	(69.0%) B
学校関係者評価委員会の評価	生徒一人ひとりの内情を理解することは非常に難しいことであるが、このことを大切に生徒と教師との信頼関係を築き満足度の高い学校となるよう頑張ってもらいたい。人間性も成長する鹿西高校の良さを自信をもって発信すればよい。				
評価結果を踏まえた今後の改善策	生徒と教師との信頼関係を築き、積極的な生徒指導をさらに強化して問題行動の未然防止につなげる。学校が一体となって組織的に取り組む。				

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び改善策（成果と課題）
<p>3 キャリア教育の推進と進路指導体制の確立</p> <p>・地域と連携した総合的な探究の時間やインターンシップ等を通して、ふるさとや将来について考える機会を持たせ、主体的な進路の選択能力を育成するとともに、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力の育成を目指す。</p> <p>・読書活動、進路学習、講演会、面談指導等を通して明確な進路目標を持たせ、進路実現を目指す態度を早期に実現する。</p> <p>・教職員間の連携・協力を密にし、指導方法や指導体制を工夫して、3年間を見通した進路指導体制を構築する。</p>	<p>① 定期的な進路情報の提供に努め、大学見学会、進路希望別説明会、保護者懇談会、コース選択説明会、卒業生と語る会など進路ガイダンスを充実させる。</p> <p>面談等により生徒の進路意識を高揚させ、積極的に進路実現を目指す態度を育成する。また、必要に応じて教科担当者の面談も行う。</p>	<p>【教員（担任+進路指導課）】 半期に行う対象教員による進路ガイダンスの回数が5回以上である割合が A 75%以上 B 65%以上 C 55%以上 D 55%未満</p> <p>※進路ガイダンスには、個人面談、奨学金説明会、大学見学会、各学年集会の進路説明会、コース選択説明会、卒業生と語る会等を含める。</p> <p>【生徒】自分の進路希望を実現させるために必要な情報が何であるかをわかっている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p style="text-align: center;">B (64.7%)</p>	<p>上半期よりは全体の数値が向上した。しかし実態としては、学年間及び担任間の回数之差が大きい。全体のガイダンスの充実を図るとともに、生徒の実態・状況やニーズを正確に把握した上で、適切な助言を行うために、面談機会の確保・拡充を図る必要がある。</p>
	<p>② 「総合的な探究の時間」の活動を通して、ふるさとや将来について考え、主体的な進路の選択能力を養う。</p>	<p>【生徒】取組によってふるさとや将来について考えられたと答える生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満</p>	<p style="text-align: center;">A (92.1%)</p>	<p>1年生の肯定的評価(A+B)は97.1%で、さらにA評価が前期より23.1%上昇している。フィールドリサーチの事業所や探究関係者から多く助言を得たことにより生徒の充実感が高まっている。一方、2、3年生はA評価が微減、2年のD評価が増加している。2・3年生の個人探究にもっと対話的な指導が必要であると思われる。</p>
	<p>③ 朝読書や学級文庫等で、読書意欲を喚起し、読書の習慣を身につけさせることで、自分自身を見つめながら自己の将来についても考えることができる生徒を育成する。</p>	<p>【生徒】読書は進路について考えたり、社会や自分をみつめたりするうえで有意義であると答える生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満</p>	<p style="text-align: center;">A (91.3%)</p>	<p>前期より+3.3ポイントとなり、A評価となった。また全体の肯定的評価(A+B)が11.3%上昇している。今後も工夫した取り組みとして、2月に図書教養講座を実施し、取組方がやや弱い2年生に参加希望を呼び掛けたい。</p>
	<p>④ 教科会議で各種の試験・模試等のデータを分析して生徒の状況を的確に把握した上で、授業や補習で指導する内容を検討する。幅広い進路選択に対してきめ細かく指導し進路実現を図る。</p>	<p>【教員】入試問題を念頭に置いた教科指導の改善に取り組んでいる教員の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p style="text-align: center;">A (72.8%)</p>	<p>幅広い進路希望に対応するための指導という点では、教員個々の取り組みにばらつきがある。教科としては、模試の成績データ等を分析して対策を講ずることがやや不十分となっている。補習や個別指導に加え、定例の教科会議を軸に指導法の検討を充実させ、指導の底上げを図る必要がある。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>国公立大学進学希望者が約3割を占めており、私立大学志望者を含めると過半数となるため、例えば「模擬試験偏差値50以上」等の具体的数値目標を示すのも良いのではないかと。</p>			
<p>評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>三年間を見通したキャリア教育の全体像を再構築する。総合的な探究の時間の学習と連携し、主体的な進路選択につなげる。また、面談機会の充実と早期の個別指導を展開する。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び改善策（成果と課題）
<p>4 保護者や地域から信頼される学校づくりの推進</p> <hr/> <p>・働き方改革への意識を高めながら業務改善を組織的に推進し、今日的教育課題の理解とそれに対応しうる教職員としての指導力向上に努める。</p> <p>・学校公開、ホームページ、学校だより、マスメディアなどによって広報活動の充実を図り、本校の教育活動の理解が深まるように努める。</p> <p>・中学校の生徒や保護者に本校の教育活動の特色や魅力を伝え、本校への志願者の確保に努める。</p>	① 教員が業務効率化を進めながら、教育効果を高めるために組織的な改革に取り組む。	<p>【教員】学校が組織的に業務効率化を進めていることにより、業務効率化が進んでいると実感している教員の割合が</p> <p>A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p style="text-align: center;">C (62.1%)</p>	<p>今年度前期の肯定的評価64.6%と比べると、-2.5ポイントとなった。昨年度は71.4%でB評価であり、業務の効率化は狙い通り進んでいない。働き方改革を掲げた当初に業務のスリム化をすることができた。現在、来年度の行事検討をしている最中なので、スリム化した計画案を作成したい。</p>
	② 各課・学年と連携して教育効果を高める情報を保護者に提供し、学校と保護者が一体となるように、学校行事等への参加を積極的に呼びかける。	<p>【保護者】PTA総会、PTA教育懇談会、教育ウィークなど年間を通して生徒や学校の様子を見に来校した保護者の延べ人数が</p> <p>A 500人以上 B 400以上 C 250以上 D 250未満</p>	<p style="text-align: center;">C (306人)</p>	<p>PTA総会を书面決議としたため、来校する保護者の人数は目標に達しなかった。しかしコロナ禍でも鹿高祭では保護者に来校していただいた。保護者が、学校の教育活動に高い感心を持ち、少しでも多く学校や生徒に関わろうという雰囲気を醸成できるよう、情報発信や機会の創出に継続的に取り組みたい。</p>
	③ 学校と家庭が連携し、携帯電話、スマートフォンを適切に使用する態度を身につけさせるようにはたらきかける。	<p>【生徒】携帯電話、スマートフォンの「家庭内ルール」を「守っている」、「ほぼ守っている」と回答した生徒の割合が</p> <p>A 85%以上 B 65%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p style="text-align: center;">A (90.1%)</p>	<p>ルールを守っている生徒の割合は高く保たれている。今後、どのようなルール（時間制限、マナーアップ、リスク回避）を作っているかを確認することや、ルール作りにあたっての観点を提示するなどの指導により、さらにスマートフォンを適切に使用する態度を身に付けさせたい。</p>
	④ ホームページの内容を充実させ、本校の教育活動の内容を保護者に理解してもらうとともに、学校配信メールによる情報提供の充実を図る。	<p>【保護者】ホームページや学校からの通信文書により、教育活動が分かりやすいと感じている保護者の割合が</p> <p>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p style="text-align: center;">A (93.1%)</p>	<p>前期から5.9%アップでAとなった。上半期ではBであったため、2日に1回又は週に3回以上のHP更新を心がけ、一斉メールの配信頻度も上げたことがポイントアップに繋がったと思われる。今後は、年間を通して更新、配信頻度を維持向上することや、見やすいレイアウトに改善することが課題として考えられる。</p>
学校関係者評価委員会の評価	<p>(1) ホームページには日誌や合格体験記等が日々更新され、学校の様子がよくわかり、保護者や外部の人にとって非常に良いと思われる。外部向けのページと内部向けのページとの使い分けも便利である。</p> <p>(2) YouTubeを活用し、学校紹介をしているところもあるため、写真だけではなく動画を取り入れてもよいのではないか。</p> <p>(3) 保護者と生徒のアンケート結果から、「入学してよかった」と感じている割合が高いことがわかるが、このようなことを中学生や外部の人に向けてアピールできるとよい。</p>			
評価結果を踏まえた今後の改善策	<p>(1)、(2) ホームページでは、動画の活用を行い、対象者別のページを効果的に取り入れることができるよう検討する。また、R4年度も卒業式の様子を配信する。</p> <p>(3) 本校の実情や良い点について、外部に対してより具体的にアピールする視点を持ち、周知することを重視する。</p>			